

—令和4年度 大阪市女性大会を開催しました—

令和5年1月25日(水)クレオ大阪中央ホールで大阪市女性大会を開催しました。各単位から会員5名ずつが参加し「大会決議」として、地域に生きる女性の立場から「学習」と「実践」活動に取り組み、男女共同参画社会の実現に寄与していくことを確認しました。当日は、多くの来賓の皆様にもご臨席を賜り、お祝いの言葉や温かいメッセージをいただきました。第2部の講演会「地域で輝く女性会～地域のリーダーが果たす役割～」では、大阪教育大学特任教授 新崎国広氏にお越しいただきました。地域活動やボランティアの重要性などについて、ユーモアを交え楽しくお話しくださいました。



男女共同参画コラム

私たちのまちの防災、東北の女性リーダーたちと考える

近年、全国はもとより世界で様々な災害が発生しています。直近では平成30年6月の大阪府北部地震が記憶に新しいと思いますが、同年9月には北海道胆振東部地震も発生していました。今年2月に発災したトルコ・シリア地震も甚大な被害をもたらしています。心からお見舞い申し上げます。

そして、災害が多発する日本で暮らす私たちには、改めて日ごろの備えが欠かせないことを実感します。

そんな中で大阪市男女いきいき財団は、いざという時に地域でリーダーシップを発揮してくださる女性を増やすという事業に取り組み始めました。仙台にある公益財団法人さなぶりが、休眠預金を活用して「女性の活躍が災害の困難を軽減する地域創り」を行う団体を募集したことに応えたものです。

同財団は、東日本大震災を契機に被災地で設立された財団として、発災後の10年を地域と共に歩んでこられました。防災・減災・復興を切り口とし、日本全国で女性リーダー育成を加速させ、

結果的に地域全体に女性の視点が確実に反映されるような地域創りに貢献したいと考えられたようです。

大阪で活動する私共の財団にとっては願ってもない機会として、大阪市や大阪公立大学に協力いただき、令和4年から3年間の事業としてスタートしました。

令和5年6月からは「地域防災女性ファシリテーター養成事業」を開始する予定です。10月には被災地東北の仙台、石巻を視察し、現地で活動を継続されてきた女性リーダーたちとの対話や交流を計画しています。

東北の女性リーダーたちが、何に悩み、どのように考えて行動してきたのか、知恵と工夫を学び・交流できることを今からとても楽しみに思っております。女性リーダーどうしの交流が深まることによって、共感や信頼し合える仲間として友情を育む機会になればと願っております。

地域の安全・安心に向けた活動に日ごろから取り組んでおられる女性会の皆様、是非一緒に取り組みませんか。

一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会
理事兼事務局長 沢田 薫



休眠預金を活用した事業です

設立20周年

夕陽丘基金へのご協力、いつもありがとうございます。

NEW

DV被害者に経済的な援助を行い、心身の回復を図り、自立を支援することを目的に平成16年3月23日に設立された夕陽丘基金は、来年3月に20周年を迎えます。女性会をはじめ、多くの市民の皆様の募金に心から感謝申し上げます。これからも、DV根絶をめざし、被害者の方が一日も早く再出発ができるようにという願いをこめて活動していきます。引き続き、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

チャリティグッズ

売上の利益が夕陽丘基金への寄付になる夕陽丘基金のチャリティグッズに、新しく『フェアトレードコーヒー』ができました。

2パック入り 500円
5パック入り 1,000円



「助け上手」「助けられ上手」になって、地域も私たちも輝きましょう

去る1月25日、市女性会は令和元年度以来3年ぶりに大阪市女性大会を開催することができました。寒さの厳しい日でしたが、第1部の式典では大阪市長様をはじめ各区区長様、市会議員の皆様、関係団体の皆様など、多くの来賓の皆様のご臨席を賜り、あらためて御礼申し上げます。第2部は大阪教育大学の新崎国広特任教授の講演でしたが、私たちの活動へのエールをいただき、約500名の会員は笑顔にあふれました。手話や隣の人とのワークも交えての講義に、寒さを忘れるひとときでした。



戦後まもない昭和24(1949)年12月に結成された市女性会は、学習を活動の基本としながら、常に女性の教養と地位の向上をめざして活動してまいりました。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響により活動が思うに任せない状況が続いておりましたが、ようやく通常の活動ができるようになっていきます。今号には各区の活動報告を掲載しておりますので、日頃の活動の様子をぜひご覧ください。

昨年の年末にかけて、みおつくしの鐘についての取材や鼎談の依頼をお受けする機会がございました(日本経済新聞1月1日夕刊、大阪国際会議場での「鼎談『愛の鐘』みおつくしの鐘」)。市女性会がみおつくしの鐘を大阪市に寄贈したのは昭和30(1955)年のこどもの日でした。70年近く前のことでもあり、今の大阪市民の皆さんには当時の世相やこどもたちが置かれた状況、女性たちがこ

の鐘にかけた願いを知る人はほとんどおられないでしょう。女性たちがひとりの個人として、自由に発言したり活動したりすることが困難であった時代に、自分たちの思いを結集させ、それを実現するための熱量を持ち得た組織としての市女性会(当時は市婦協)の力強さ、またそこに集う女性たちの気概に触れて、私自身も大いに力を得ることができました。

今も、女性の力がなければ、地域コミュニティは成り立たないでしょう。ふれあい喫茶も百歳体操も、子育てサロンのお手伝いも、お世話をするのは大半が女性たちです。女性の力は非常に大きいですが、一方で高齢化という現実もあります。これらの活動の担い手を若い人につないでいくこと、男性にももっと地域に出て来てもらうことが不可欠です。そのためには、会員一人ひとりが、もちまへのボランティア精神、おせっかい力を発揮して「助け上手」であるばかりでなく、「助けられ上手」となる必要があります。「助けられ上手」となることで、これまでつながりなかった人たちや様々な団体、機関と連携することができ、会員も会も新たな力を得て、それが地域を元気にすることにもつながっていくのだと思います。

市女性会は令和6(2024)年に結成75周年を迎えます。引き続き皆様のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



大阪市地域女性団体協議会
会長 前田 葉子



各区の活動紹介

都島区

都島区は、1単位、会員数9名と少人数で活動しております。少ない人数でも皆で楽しく学ぼうをモットーに活動しています。今年度は学習会も開くことができ、地域の方々に参加を呼びかけ、会員以外の方も一緒に「認知症を学ぼう」「雪印メグミルクくらしに備えを」「百歳体操」などを開催することができました。区民まつりも開催



され、たませんやあてもの等に、子ども達が大喜びでした。女性会活動、頑張ります。

中央区

区女性学習会第3講「参加する大阪の緑のまちづくり」植物はヒトの「癒」としても「食物」としても不可欠なものである。この両面で私たちのこれからのまちづくりを考える。ある公園では人々が集い、学び、楽しみ、憩う場として官民一体でのまちづくりをする。また、水耕栽培の植物工場では、太陽光、地熱などで省エネでの栽培、重労働も不要で、福祉施策にも貢献、これからの緑のまちづくりは、わたしたちの生活を物心両面で支えてくれる、未来社会のデザインである。

2022年度学習会の一コマ



港区

コロナ禍ではありますが、3年ぶりに港区民まつりが開催されました。港区地域女性団体協議会は、総踊りで参加しました。それぞれが、地域の色のハッピー着物等で出演。感染対策を取りながらの練習は大変でしたが、皆様の大成功させようとの団結力で、素晴らしい踊りができました。



見学者の方々からも褒めの言葉をいただき、喜んでいただけただけに、本当に嬉しく思っています。

福島区

福島区地域女性団体協議会は、区役所主催、女性会共催で男女共同参画事業「心に残るときめきプラザ」講演会を開催しました。テーマは「一歩ふみだせば風はかわる」講師はソウルシンガーの新井深絵さんです。ゴスペル音楽との出会いで人生が大きく変わったお話です。



力強い歌声笑いの絶えない時間でした。「Oh Happy Day」の曲では、手拍子で心がひとつとなり素晴らしい歌で元気づけられました。

西区

当女性会では常に学習する団体であるという考えのもと、毎年年間テーマを決め、深く掘り下げて学んでいます。今年度は「防災の心得～自らの命は自らで守る」をテーマに2回の座学と1回の研修、そしてフィールドワークを1回行いました。生活に密着した女性ならではの視点を取り入れながら生活に役立つ様々な知恵を学ぼうと頑張っています。



大正区

大正区制90周年区民まつりが10月16日、3年ぶりに開催されました。まだまだ、これまでのようにはできませんが、お天気に恵まれ最高のまつりでした。女性会も民謡総おどりで参加。3年ぶりということで全体練習、単位の練習にも力が入りました。オープニングを飾らせていただき久しぶりの緊張と心地良さを感じました。地域を支える女性団体として何事にもチャレンジしていきます。



天王寺区

昨年度の防災学習をさらに推し進める学習会を計画。和歌山の津波防災教育センター「稲むらの火の館」と醤油蔵見学に割引を利用して実施。先人の地域防災に対する知恵と勇気が今に通じ命を守る術を学ぶ機会となりました。また、女性会の会員以外の一般参加を呼びかけた、くらしの学習会では「三重奏によるクリスマスコンサート」を開催。日々の雑事を忘れて一足早い年の瀬を過ごしました。



淀川区

区学習会は久しぶりの郊外研修で、中之島美術館と水道科学館に行きました。コミュニティ学習会では、第1回は「今こそ備えよう！令和の防災」動画視聴と防災マイタイムライン作成。第2回は「防災と男女共同参画」。区の学習会は、2回目を2月に音楽療法を予定しています。これからも幅広い分野の学習活動に取り組みたいと思っています。



コロナが収束して1日でも早く安心して生活ができる日が来ることを祈念しています。

城東区

「ふつうの暮らしができる事に感謝!!」コロナ騒動も3年になり、ようやく生活の仕方も学習してきたように思います。女性学習会も今年度は「地域で考える防災～ふつうの暮らしができる事に感謝～」と題し、3回の学習に取り組みました。10月には久しぶりにバスを利用して「和歌山一稲むらの火の館」を見学。36名の参加がありました。

コロナ禍の中でも、女性会としての学習活動を益々頑張っていて行きたいと思います。



阿倍野区

区学習会では、歩くことの本当の意味、人生100年時代に歩行で認知症を予防し、歩行筋肉や骨密度も増え内臓も強くなることを学習しました。郊外学習では、京都市市民防災センターと八つ橋工場を見学しました。防災センターでは、災害は自然に起こることでも何時襲って来ても対処できるように常に気をつけていなければいけないことを学びました。またスマートフォン体験講座の学習や、区役所玄関での花の植え替えを年3回しました。最後に各単位の学習発表会をしました。



コロナ禍でしたが潤うことが多い学習会でした。

東成区

今年度の学習行事テーマは「SDGs」について。1回目(9月29日)開講式。区民センターで区長の講演「(体験談)これからの東成区の取り組みについて」50名余りが参加。2回目(11月25日)松下エコテクノロジーセンターで、大型電気製品の解体、テクノロジーを使っての分別、リサイクル資源取り出しを見学。40名が参加。3回目(12月16日)区民センターで「干支作り」41名



が参加しました。本年は、コロナ禍も収まり、通常の生活が出来る様になればと思います。

鶴見区

鶴見区地域女性団体協議会は「男女共同参画社会の推進と地域に愛される活動」をモットーに日々、励んでいます。コロナ禍が続く中でしたが当年は「ヤングケアラーの現状」「防災学習」「口腔ケアでオーラルフレイルに挑戦」の3回の学習会を実施しました。また「バレーボール大会」は、今年3年ぶりに区長はじめ各地域社会福祉協議会会長及び選手180人の参加者による各単位対抗試合で盛会に開催することができました。一方、10月末から2月末まで毎年恒例の「味噌づくり講習会」は、今年も大勢の地域女性の活動の場となり喜んで頂くことができました。



住之江区

本年度、住之江区では「心を笑顔にするライフスタイル」をテーマに学習会に取り組みました。コロナ禍の中、感染対策を行いながら「奈良金魚ミュージアム」にも出かけることができました。昨年中止になった「男女きらめきのつどい」では、落語家の桂福点さんをお迎えし、笑いの絶えない楽しいお話をいただきました。区のマスコット「さざびー」風船作りは



毎回好評で子ども達の笑顔にも癒されました。今後もコロナと向き合いながら、楽しく生活できるように取り組んでいければと思っています。